

特別展「地震展2008」
—今、わかっていること・知ってほしいこと—
多彩な関連行事・プレス内覧会を開催します

大阪市立自然史博物館では、平成20年10月25日(土)から12月7日(日)まで開催する特別展「地震展2008」において、会期中に特別展記念講演会や起震車での地震体験など、地震にまつわる多彩な関連行事を行います。

本特別展では、地震とは何か、どうして日本では地震が多いのかといった基本的なことから、大阪周辺の活断層の分布や動き、今後数十年のうちに起こる可能性が高い次の南海・東南海地震について、科学的にどこまでわかってきたのかを紹介します。

展示を見るだけでなく、関連行事に参加し体験することで、地震に関する最新の研究成果を知る機会、市民のみなさんの疑問や不安に答え、防災や減災についても考える機会としていきたいと考えています。

また、平成20年10月24日(金)午前11時から、自然史博物館 本館 集会室においてプレス内覧会を行いますので、この機会に是非ご取材いただきますようお願いします。

[関連行事の概要]

1. 特別展記念講演会

- ①「スロー地震とは何か 巨大地震予知の可能性をさぐる」
- ②「地震考古学から21世紀の巨大地震を考える」

2. 自然史オープンセミナー

- ①「地震-1. 日本列島のおいたちと地震」
- ②「地震-2. 大阪の地盤と地震」
- ③「地震-3. 津波とはどういうものなのか？」

3. 地震体験や展示ツアー

- ①「起震車で地震を体験してみよう！」
- ②子どもワークショップ

4. 地震の実験

ジオラボ 「ペットボトルで液状化を実験！」

5. 地震の野外観察

活断層を歩くシリーズ7「上町断層」

[プレス内覧会]

10月24日(金)午前11時～ 自然史博物館 本館 集会室(4頁地図参照)

※お越しの際は、前日までに別紙ファックスにてお申込ください。

【関連行事の詳細】

※ 1, 2, 4 の行事については参加費は無料ですが、博物館常設展入館料が必要となります。

1. 特別展記念講演会

①「スロー地震とは何か 巨大地震予知の可能性をさぐる」 〈10月27日 締切・申込必要〉

1995年兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）が起こったあと、日本国内には高精度・高密度の地震観測ネットワークが整備され、地震に関する基礎的研究が飛躍的に進んでいます。その中の大きなトピックが、南海トラフや日本海溝などのプレート境界型巨大地震が想定される場所での「スロー地震」の発見と、「アスペリティ」という概念の登場です。スロー地震と普通の地震は何が違うの？ アスペリティって何？ 地震予知をめざした研究の最前線の話をお伺いします。

日時：11月2日（日）午後2時～午後4時

会場：自然史博物館 講堂 定員：250名

講師：川崎一朗氏（京都大学防災研究所・地震予知研究センター 教授）

②「地震考古学から21世紀の巨大地震を考える」 〈11月14日 締切・申込必要〉

地震活動を考古学的手法を用いて研究する「地震考古学」を提唱し、文献に記述がない時期の南海地震を検証するなどして、南海地震が規則正しい周期で起こってきたことを明らかにしてきた、産業技術総合研究所の寒川さんをお招きし、講演会を開きます。「地震考古学」の立場で、活断層から発生する内陸地震や、「今世紀の南海地震」像について解説していただきます。

日時：11月29日（土）午後2時～午後4時

会場：自然史博物館 講堂 定員：250名

講師：寒川 旭氏（独立行政法人 産業技術総合研究所 招聘研究員）

2. 自然史オープンセミナー

①「地震－1. 日本列島のおいたちと地震」 〈申込不要〉

第1回目は地震展の概要と、その中で特に日本列島のおいたちと地震との関係について解説します。

日時：10月4日（土） 午後3時～午後4時30分 場所：自然史博物館 集会室

講師：川端清司学芸員（地史研究室）

②「地震－2. 大阪の地盤と地震」 〈10月18日 締切・申込必要〉

大阪は淀川河口に広がる海岸平野に位置しています。大阪の地盤となっている軟弱な平野地下に分布する厚い地層がどのようにして形成されたのかを紹介し、地震災害との関連について、大阪府が行った地震動解析の結果なども交えながら解説します。

日時：11月1日（土） 午後3時～午後4時30分 場所：自然史博物館 講堂

定員：250名

講師：三田村宗樹氏（大阪市立大学理学研究科 准教授）

③「地震－3. 津波とはどういうものなのか？」 〈申込不要〉

地震の際に起こる津波は、地震の揺れよりもはるかに広範囲に被害を及ぼします。2003年のスマトラ沖地震津波が記憶に新しいですが、日本でも過去から多くの被害を受けてきています。津波とはどのようなものなのかを解説し、日本で行われている津波対策について紹介します。

日時：12月6日（土） 午後3時～午後4時30分 場所：自然史博物館 集会室

講師：中条武司学芸員（第四紀研究室）

3. 地震体験や展示ツアー

①「起震車で地震を体験してみよう！」 〈申込不要〉

大阪市消防局の地震体験車（起震車）で、地震の揺れを体験します。

日時：11月1日（土）、2日（日）、12月6日（土）、7日（日） 各日午前10時30分～午後3時30分まで（ただし午後0時から午後1時30分までは休憩）

場所：自然史博物館ポーチ（ナガスクジラの下）

参加費：無料ただし博物館常設展入館料または植物園入園料が必要

②子どもワークショップ「なまちゃんハカセと展示ツアー」 〈申込不要〉

会場の中の「なまちゃんキッズパネル」をキーワードに、ハカセが展示を紹介します。

※「なまちゃん」は地震展2008のキャラクターです。

日時：10月25日（土）、26日（日）、11月22日（土）、23（日） 各日午前11:00～、午後1:00～、午後3:00～

参加費：無料ただし地震展入場料が必要

場所：自然史博物館ネイチャーホール ※「なまちゃん」は地震展2008のキャラクターです

4. 地震の実験

ジオラボ「ペットボトルで液状化を実験！」 〈申込不要〉

地震の時に土砂がぐしゃぐしゃになり、建物などに大きな被害をもたらす地層の液状化を、ペットボトルを使った簡単な実験で再現します。液状化や地震への理解を深めましょう。

日時：11月8日（土）午後2時30分～午後3時30分 場所：自然史博物館ナウマンホール

講師：中条武司学芸員（第四紀研究室）

5. 地震の野外観察

テーマ別自然観察会・活断層を歩くシリーズ7「上町断層」 〈11月18日締切・申込必要〉

上町断層は谷町のお寺が集まる上町台地の西縁に位置していて、大阪層群など古い地層を大きくくずらしていることはわかっていますが、最新の活動時期や活動の周期など不明な点もあります。断層に係する湧水や地形などを観察します。

日時：11月30日（日） 終日 雨天中止 場所：大阪市

講師：川端清司学芸員（地史研究室）ほか 定員：50名

参加費：中学生以上100円、小学生50円

【関連行事の申込方法】

往復はがき又は電子メール、自然史博物館ホームページからも申込できます。

（行事名、参加希望者全員の氏名、年齢（学年）、住所、電話番号、および返信用宛名を記入）

- ・宛先 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館普及係あて
- ・電子メール gyouji@mus-nh.city.osaka.jp
- ・自然史博物館ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/> イベントコーナーより

[地震展 2008 の開催概要]

- 1 名 称 大阪市立自然史博物館 第37回特別展「地震展2008」
- 2 主 催 大阪市立自然史博物館、特定非営利活動法人大阪自然史センター
- 3 後 援 大阪府、大阪府教育委員会
- 4 会 期 平成20年 10月25日（土）～12月 7日（日）
ただし、毎週月曜日（祝日の場合は翌日）は休館。会期38日間。
- 5 会 場 大阪市立自然史博物館 ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター 2階）
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23 TEL 06-6697-6221 FAX 6697-6225
地下鉄御堂筋線「長居」3号出口東へ800m JR阪和線「長居」東へ1000m
- 6 入 場 料 大人400円、高校生・大学生 300円（30人以上団体割引あり）
本館（常設展）入館料（大人300円、高大生200円）とのセット料金は、大人600円、
高大生400円。
※中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方、大阪市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。
- 7 開館時間 午前9時30分から午後4時30分まで（入館は4時まで）、ただし10月31日までは午後5時まで（入館は4時30分まで）
- 8 展示構成 第1部 最近地震が多い？（はじめに）
第2部 地震の正体
第3部 近畿の活断層
第4部 揺れを科学する
第5部 地震で何が起こるのか
第6部 過去の地震を調べる
第7部 大阪をおそう地震1・南海地震
第8部 大阪をおそう地震2・活断層による地震
第9部 地震に対する備え



※プレス内覧会にお越しの方は、博物館通用口からお入りください。
駐車スペースもございます。

【地震展 2008 の広報写真 素材見本】

①有馬-高槻構造線のトレンチ写真



茨木市内で実施された有馬-高槻構造線活断層系、真上断層のトレンチにあらわれた、地層のズレ。一番新しい地震では、室町時代の地層までがずれており、江戸時代の地層がずれていないので、1596年の慶長伏見地震でずれたことがわかった。(写真提供:産業技術総合研究所・吉岡敏和氏)

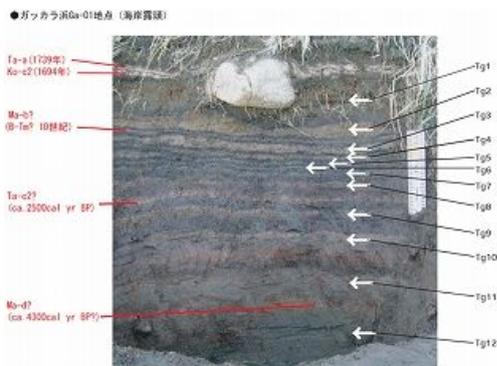
②琵琶湖西岸断層帯のトレンチ写真



滋賀県高島市で実施された琵琶湖西岸断層帯・饗場野(あいば)の断層のトレンチにあらわれた地層のズレ。写真左下から右上のずり上がる逆断層が観察できる。(写真提供:高島市教育委員会)

- ※トレンチ調査:活断層が通過すると考えられる場所に、調査のための溝(トレンチ)を掘り、掘り出した壁面の地層の積み重なりやズレを観察することで、活断層の過去における活動や最新の活動時期などを調べる調査方法。
- ※地震展会場ではトレンチから剥ぎ取った実物標本を展示します。

③北海道根室市ガッカラ浜の津波堆積物(白矢印)



泥炭層の中に火山灰層と12枚の津波堆積物が挟まっており、300-350年に一度の間隔で巨大津波が北海道東部沿岸部を襲ったことがわかる。この津波は、十勝沖・根室沖プレート境界運動地震や北方領土周辺を震源とする地震により起こったと推定されている。過去の津波堆積物を調べることで、地震・津波の来襲頻度が変わり、将来の地震がいつ頃やってくるかを知ることができる。(写真提供:産業技術総合研究所・七山太氏)

④石本式地震計(和歌山県立耐久高校所蔵)



1980年頃まで、同校で地震観測に使われていた地震計

⑤大坂大津波図(大阪城天守閣所蔵)



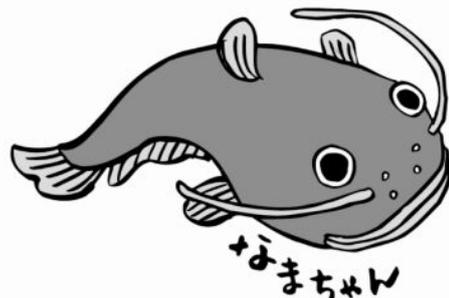
安政南海地震の津波被害を伝える瓦版

⑥地震けん(大阪城天守閣所蔵)



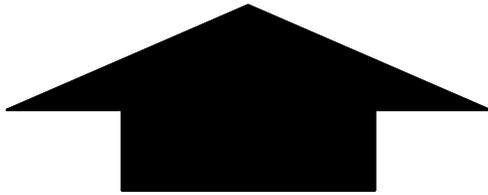
日本では古くから「鯰が暴れると大地震が起きる」と信じられてきました。江戸時代の終わりごろとなる安政2年(1855)10月2日、江戸を直下型地震が襲い、大災害となりましたが、その直後から地震の象徴としての鯰を描きこんだ「鯰絵」とよばれる多種多様な印刷物が町中に出回りました。これもその一つとみられます。描かれているのは「地震・雷・火事・おやじ」という、世の中で恐ろしいもの4人が拳【けん】遊びに興じている様子です(今のじゃんけんも拳遊びの一種です)。「鯰絵」の多くはこのように面白おかしく描かれています。

⑦なまちゃん



©大阪自然史センター

地震展 2008 のキャラクターは「なまちゃん」です。



<FAX送信>

FAX. 06-6697-6225

送信先：大阪市立自然史博物館

管理課広報 宛

TEL.06-6697-6221, FAX.06-6697-6225

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

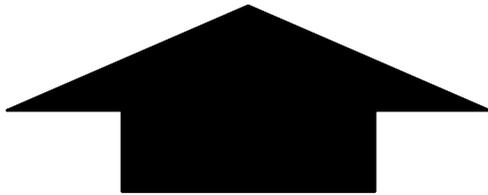
「地震展 2008」

会期中、会場内における取材をご希望される方は、下記該当箇所をご記入の上、原則、ご取材の3日前までにFAXにてお送りください。なお大変恐縮ですが、撮影時間につきましては、会場の混雑状況などにより、事前に調整させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

またお手数ですが、掲載媒体を1部（掲載紙・誌、DVD、ビデオ、カセット、MD など）お送りくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

取材申請書

貴社名	
媒体名	
所属部署／ご担当者名	
取材日	2008年 月 日 () : ~ :
人数 (カメラ含む)	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL. FAX. e-mail.



<FAX送信>

FAX. 06-6697-6225

送信先：大阪市立自然史博物館内

管理課広報 宛

TEL.06-6697-6221, FAX.06-6697-6225

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

「地震展 2008」

広報写真申込書

本展覧会の広報用写真をご用意しております。ご希望の写真に○印をつけ、下記にご記入の上、ご返信ください。

- ・写真使用は本展のご紹介のみとさせていただきます。尚、本展終了後の使用は出来ませんのでご了承ください（掲載期間：2008年12月7日まで）。写真の使用後は、データは破棄してください。
- ・掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で管理課広報宛まで FAX またはメールをお送りください。また、ご掲載いただいた場合は、お手数ですが、掲載媒体を1部（掲載紙・誌、DVD、ビデオ、カセット、MD など）を管理課広報宛にお送り下さい。

No	写真名	ご希望に○
①	有馬-高槻構造線のトレンチ写真	
②	琵琶湖西岸断層帯のトレンチ写真	
③	北海道根室市ガッカラ浜の津波堆積物(白矢印)	
④	石本式地震計（和歌山県立耐久高校所蔵）	
⑤	大坂大津波図（大阪城天守閣所蔵）	
⑥	地震けん（大阪城天守閣所蔵）	
⑦	なまちゃん	

貴社名	
媒体名	
掲載・放送予定日	
所属部署／ご担当者名	
ご住所	〒
ご連絡先	TEL. FAX. e-mail.